日政連栃木会
宇都宮支部

支　部　だ　よ　り

第18号

平成２４年２月７日発行
編　集　日政連宇都宮支部
発行人　支部長　岸　清美

栃木県知事
栃木県行政書士会名誉会長
福　田　　富　一

日本行政書士政治連盟栃木会宇都宮支部の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は、3月11日に発生した東日本大震災という未曾有の災害からの復旧・復興に全力で取り組んだ1年でありました。

我が国に甚大な被害をもたらしたこの大震災に対しまして、県では、地震発生後直ちに災害対策本部を立ち上げ、市町を始めとする関係機関と密生津に連携を図り、ライフラインの復旧、福島第一原子力発電所の事故に伴う対策や、県外からの避難者への対応など復旧に必要な考え得る限りの手立てを講じて参りました。また4月には、震災復興推進本部を設置し、被災者の生活支援、農林業や観光業等における風評被害対策、全県的な節電への取組みなど、復興対策にも全力を尽くして参りました。特に、原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響により県内の空気や水、土壌等の安全性が脅かされるとともに、ホウレソウや牛肉など一部の農畜産物は一時出荷停止という事態に至りました。これらに対し、各種検査体制の確立や校庭等の表土除去への支援など最大限の努力を払ってきているところです。

現在、地震による直接的な被害につきましては、おおむね復旧の見通しが立ちつつあり、県内企業の生産活動も持ち直しの動きが表れてきておりますが、未だ収束しない原子力発電所事故の影響や電力供給不足の不安に加え、世界経済の先行き不透明感、長引く円高とデフレ等により、景気回復の遅れが懸念されるほか、雇用情勢も厳しい状態が続いています。

こうした状況下において本年はまず、放射性物質に対する各種検査を徹底するとともに、12月に設置した「原子力災害対策チーム」を中心に、市町村と連携した取組等を進めて参ります。

また、昨年4月にスタートさせた栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」に掲げる「安心」「成長」「環境」の三つの重点戦略は、いずれも震災から立ち直り、新たなとちぎづくりを進めていく上で欠かすことのできない政策の軸となるものでありますので、引き続きプランの着実な推進を図って参ります。

本年5月には、東京スカイツリータウンに本県のアンテナショップ「とちまるショップ」がオープンします。任期二期目の仕上げの年を迎えるに当たり、今まで以上に本県の誇る食や自然、産業、観光、文化などとちぎの魅力を丸ごと発信し、県内26市町とともに東日本大震災を乗り越え、「新とちぎ元気プラン」に掲げた「元気度　日本一　栃木県」の実現に向け全身全霊を傾けて参りたいと考えております。本年も日本行政書士政治連盟栃木会宇都宮支部の皆様のよりいっそうの御理解と御支援をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げまして、新年の御挨拶といたします。

行政書士政治連盟顧問　栃木県行政書士会員
前参議院議員　　築　瀬　進

昨年は、マンデーレポート900回を達成しました。91年1月にスタートしたので、ちょうどあしかけ20年かかったことになります。900回達成の記念として二つのイベントを行ないました。ひとつは原口元総務大臣をお招きしてのトークライブ「テレビと政治」、ふたつめは鳩山・海江田・大畠の三閣僚経験者との「経済の現状と未来を語る会」でしたが、いずれも須永会長はじめ会員の皆様のご協力をいただき盛会裏に開催することができました。心から感謝申し上げます。

民主党は、1996年の6月に誕生しました。私は、そのとき政策委員長として、党名の提案、そして「市民が主役の民主党」というキャッチフレーズの提案をさせて頂きました。この結党の思いを再び確認したいというのが、さきのお三方をおよびしてのイベントの趣旨でした。

どうも、最近の民主党は、結党の原点を忘れていやしないか。そんな私の気持ちが、このイベントに結びついていたことは間違いありません。「民の声を恐れよ」とか「民の声は神の声」とか、どこかで、そんなことわざが響いていそうな気がします。

政権を担当することは、本当に大変です。まして「市民が主役」の言葉の意味が、明治以来の官僚主導型の政治を変えて、本当に国民が主役となる政治の実現を意味したことにあるわけですから、たいへんな取り組みであることは間違いありません。しかし、どうも、民主党政権の、取り組みがあやうさがつきまとっていて、気が気ではありません。

わたしも少ない経験ながら、かつて建設政務次官を務めたことがあります。阪神大震災をはさんだ前後470日程度でしたが、そのときのことをふり返ってみると、文字通り官僚の皆さんがもってくる情報の洪水の中で仕事をしているような感じでした。そんな中で、ほんとうに国民の目線で判断し、国民に本当にプラスになる決定をしていくことは、なまなかなことではないと実感したことが思い出されます。

与党は政権の維持に汲々とし、野党は政権奪回をめざしてなんでも政局化する、そんな毎日が続く中で、いつしか国民がないがしろにされる、そんなことは絶対にあってはならないと、強く思うしだいです。

市民が主役とは、政治ばかりではありません。行政についても、まさにそうあるべきです。そして、行政と市民のアクセスを十分に行い、行政の不十分さや、行政の不公平、そして行政の不当性を、しっかりと市民の側にたって争っていくためにも、行政書士の皆さんは重要な役割を担っていくべきであると思っています。私も、そのお手伝いをするためにも、一刻も早いカムバックをしなければならないと思っています。今年もどうぞよろしくお願いします。

宇都宮市議会議員
郷　間　康　久

支部会員の皆さまにおかれましては、辰年にふさわしく昇竜飛舞の新年を迎えられ、益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は未曾有の大震災、無先例の原発事故、記録的な台風被害など、まさに「災の年」と言える1年でした。過去の教訓をはるかに超える天災（地震と津波の複合被害）と人智の甘さが露呈した人災（放射能漏洩）が同時に起こったことにより、防災対策やエネルギー政策のあり方を根本的に見直す必要が迫られる結果となりました。

一方で、「絆」という言葉に代表されるように、日常における人と人とのつながりが、非常の際に大きな力となることを私たちは痛感しました。

このように、私たちの暮らしには日常と非常という二つの変化が繰り返されています。そのいずれの場合においても私たち行政書士の果すべき役割が大きいと私は感じています。

日常生活における社会的障壁の除去ばかりでなく、非常の際に如何に人道的な貢献ができたかという点も「頼りになる士（さむらい）」としての一使命であると思えるからです。

そんな意味でも、昨年七月に支部が行った震災相談会はすばらしいものでした。これからもあらゆる場面で行政書士会宇都宮支部がその存在力を社会に示し、市民生活に不可欠な士業支部として広く評価され発展できるよう微力ながら私も全力を尽くす所存です。

結びに、震災直後の混乱の中で執行された統一地方選挙において支部の皆さんの多大なるご支援を賜わり、宇都宮市議として二期目に歩みを進めることができましたことを心から感謝申し上げます。併せて、「被災地に明日を送ろう！」というテーマで私が個人的に取り組んだ仮設住宅用カレンダー収集プロジェクトにもたくさんの会員の皆さんにご協力をいただき本当にありがとうございました。

まだまだ未熟な書士議員ですが、これからも皆さんと同じコスモスの誇りある徽章と、利他主義（altruism）を誓った証である議員章を胸に並べ、皆さんに対する感謝の気持ちを忘れずに日々精進してまいりますのでご指導の程をよろしくお願いいたします。

二〇一二年が皆さんにとって実りある年となることを心よりご祈念申し上げ新春のご挨拶といたします。

《編　集　後　記》

支部所属の議員連盟の諸先生方と会員との交流を図るこの支部だよりも、第18号を発行することが出来ました。公務多忙の中、玉稿を賜りました先生方には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

会員の皆様のご意見ご要望等は宇都宮支部宛にお寄せ下さい。